

◇◇◇ MRA グループが中国を訪問 ◇◇◇

— 中国国際交流協会 (CAFIU) の招きで北京を訪ねる —

中国国際交流協会との交流

去る10月10日(火)～15日(日)にかけて中国国際交流協会(CAFIU)の招きにより相馬雪香国際MRA日本協会会長を初め、羽田綏子元首相夫人、榊たか子国際MRA日本協会副会長、関東MRA女性の会の藤田寿子、伊藤智子の両氏、そしてMRA事務局からの長野清志の6名が北京を訪問しました。これまで、CAFIUの代表団が6～7回にわたりスイス・コーのMRA世界大会に参加し、又、スイス、並びに、イギリスのMRAのグループが北京を訪れ交流を図ってきましたが、今回、初めて日本のMRAグループも交流を図ることが出来ました。これは、日中友好の促進のためこれまで70回以上訪中され、CAFIUの幹部の方々とも信頼関係を築かれてきた榊たか子副会長の努力によるところが大でした。更にCAFIUとMRAの交流のきっかけとして、1930年代に労働運動に携わっていた朱学范氏が80年代初めにCAFIUの初代副会長となり、かつて親しく交際していたMRAの専従者、ビル・イエイガー氏を中国に招聘したことがあげられます。

到着した翌日には、早速CAFIUの幹部の方々との意見交換が行われました。幹部の一人は、「これまでコーに6～7回代表を送っていますが、スイスでの交流は、相互理解の上でCAFIUにとって役立っています。MRAの精神は相互信頼を作る上で活用できますし、国家間の関係改善にも効果があります。世の中の紛争の解決をMRAだけに頼る訳にはいきませんが、MRAの考え方から学べることが



●郁文副会長他、中国国際交流協会の役員の方々と共に

あります。社会制度の違う国々、違う方式があつて多様性が存在します。違いがあるからこそ相互の交流、勉強が必要なのです。」と述べました。

又、別の理事の一人は「政治・経済を初め国際会議は色々ありますが、道徳問題を議論する会議はコーが初めてでした。世界でモラルを向上させるための仕事をこんなに沢山の人がしているのを有り難いと感じました。又、会議の進め方や雰囲気良く、自分の道徳レベルが少し向上した感じもしました。コーでは違う方式で話し合いが出来、その雰囲気の中で、知らない内になごやかな話し方が出来ました。人生の中でも一つの扉が開かれた感じがしました。人間の思想・意識は国家、民族、経済の発展状況、文化等によって違いますが、人間の根本は同じであり、MRAもCAFIUも道徳レベルを上げるという目標は同じです。」と述べました。又、別の幹部は、「コーの会議に初めて参加し、MRAの和解の哲学の精神は中国の伝統思想と

■主な内容■

◆ MRA グループ中国訪問報告・1-3P

◆ CRT シンガポール会議報告会・4P

◆ 21世紀に向けて・5P

◆ 「自分が変わる、家庭が変わる」・5P

◆ コラム『甘口・辛口』・6P

◆ 第23回関西MRA秋季大会報告・6P

◆ MRAワールドニュース・7P-8P

◆ 事務局便り・8P

似ており、儒教の和の精神や、自分がして欲しくないことは他人にしてはならないという孔子の言葉等に表されていると思いました。宗教・民族・国家・皮膚の色のそれぞれ違う60ヶ国以上の500人余りが、一緒に議論したことは意義深く、一つの家族のような感じがしました。この精神を拡大できれば人類に有益です。羽田元総理が素晴らしいスピーチをされたし、相馬先生、榊先生とも興味深い議論が出来ました。民間の議論であっても国際社会でそれなりの影響があると思えます。」と話しました。

郁文中国国際交流協会副会長は、歓迎晩餐会の席上で「MRAの個人と個人、国家と国家間の信頼を深める目的はCAFIUと同じです。イギリスのMRA訪中団が来られた際の団長の挨拶の中の、『世界には人々の必要を満たすだけものはあるが、貪欲をみたすものはない』との言葉に同感です。誠実、友愛は崇高なことです。CAFIUとMRAで共に頑張りたいと思えます」と挨拶されました。

又、張香山CAFIU顧問(元日中21世紀委員会首席代表)は、歓迎昼食会で「中日両国は2000年の交流の歴史を持つが、明治維新までは良い関係でした。遣唐使、遣隋使の頃は日本が遅れており、明治以降は日本が強くなったのです。今、中日関係は第3段階に入りました。日本は経済大国となり、中国も世界の一極となる可能性があり、両国が共に強国となることは歴史上初めてのこととなります。」と述べられ、新しい日中関係の構築が必要と強調されました。

多彩なプログラム

CAFIUにより多彩なプログラムが用意されました。表敬訪問をした、中日友好協会の陳永昌副会長は、相馬会長によるMRAを通じた自らのチェンジの体験とそれを社会と世界の変革に結び付けるというMRAの考え方の紹介に対し、「88才のご年齢にも拘わらぬ、相馬先生のしっかりした哲学的なご見解に同感します。お互いに尊重し合う中から平和が生まれます。20世紀には戦争等色々な苦難がありましたが、皆さんの活動が広がっていけば、世界も平和になります。中国にも孔子等の教えがあり、それは、MRAの考え方と共通するものだと思います。」と話されました。続いて訪れた、1949年の成立以来、中国の女性の地位向上のために様々なプロジェクトを行ってきた中華全国婦女聯合会 国際連絡部 弁公室(事務局)の崔克平主任は、「中国は何千年の

封建慣習を持つ国であり、婦女聯は、自尊、自立、自信、自強の4字教育を行っています。中国でも日本でも歴史は忘れられません。相馬先生と榊先生と共に、中日、そして女性のために活動されてこられたのは自分たちにも励ましとなります。相馬先生が言われたように自分から変わることが重要と思います。これからも。交流を続けて行きたいので度々来て下さい。」と述べられました。

翌日に訪問した中日友好環境保護センターは、105億円の日本政府の無償援助、及び中国政府からの6630万円の資金により96年5月に完成し、中国の環境保護事業の中心的役割を担っているそうです。日本から7名の研究者が長期滞在(1~2年)し、内2名はその貢献に対して中国政府から友誼賞を受賞しているとの報告も受け、日本と中国の協力が上手く機能している良い例として大変勇気付けられました。

教育の現場を訪ねて

北京市育英学校では、道徳教育担当のヨウ先生から次のような説明を受けました。

「一人っ子は責任感が不足し、他人への愛が少ないので、親、先生、学友に対する愛を身の回りで育てるように努めています。具体的には、3月8日の国際婦人デーには、母の偉さを説明し、母を愛する理由を伝え、母の日には、手紙を書かせ、何か手伝う、一言言葉を贈るようになどさせています。又、憲法24条に5つの愛(祖国、人民、科学技術、労働、公共のものを愛する)が謳われていますが、祖国への愛は集団・学校を愛する、人民への愛は両親を愛することからスタートさせています。『教師の日』がありますが、その日は、先生に御礼をいう、お茶を用意する、手紙を送る、掃除を助けるなどをさせ、身の回りから愛を育てるようにさせています。環境教育も始めています。各家庭から古新聞を集めたものを売って種を買い、黄河の植林地に植林させているのです。休みを利用してグループを作り、他の人間と付き合うような活動をさせます。友人の作り方を学ばせ、孤独感を解消させます。94年から実施し、今、国に推し進めています。3年生からは他人の家に泊ませ、90年からは、今も貧しい子供の多い華北等の村々との交流も拡大し、愛の心、他人を助ける心を育むように努めています。」



● 婦女連合会の崔主任と意見交換を図る相馬会長と羽田夫人



● 小学校のコンピューターの授業風景を見学

9つある国立幼稚園の一つである北海幼稚園では、「一人っ子で甘やかされた子供が多いため、原則として寄宿制として社会性を養うようにしていますが、特別扱いして欲しいなど親からの細かい要求も多いのです。」との説明があり、ここでも一人っ子政策の弊害を克服しようと努める教育者達の悩みが感じられました。

更なる交流を

今回、十数年振りに北京を訪れて、中国の経済の発展振りに強い印象を持ちました。完成した、或いは建築中の真新しい大きな近代的なビルの数々は勿論のこと、道を行き交う人々の服装にもそれを感じさせられました。万里の長城には、立錫の余地の無いほど観光客が全国各地から訪れるようになってきているのも驚きでした。又、楽しそうにレストランで食事をしている、多くの家族連れや友人同士の姿も新鮮に写りました。21世紀に向けて日中双方の信頼関係を築いていくためにも更なる交流を深めて行きたいと強く感じさせられた今回の訪中でした。（長野 清志 記）

MRA訪中の旅を振り返って

藤田 寿子



北京国際空港に着いたその瞬間から、中国国際交流協会の方々の一方ならぬ温かい心のこもったご接待を受けましたが、それは離陸の時迄何ら変わることなく続き、心地よく安楽に無事に過ごせましたが、これは実に頭が下がる得がたい体験でした。同時に、これが七十数回にも及ぶ訪中を通じて培われた榊さんの中国に対する友情と信頼の賜と深い感銘を受け、深謝するばかりでございました。

連日のスケジュールは、実に密度の濃いそしてバラエティに富んだ充実したもので、現在の中国をみる必要にして十分なものと感心いたしました。外国と申してもヨーロッパの国しか行ったことのない私にとりまして、こんな身近にこんな素晴らしい国が在ったことを知ったことは何よりの収穫でした。ひとりっ子政策にしても個々の問題については、かなり無理がある様に思いましたし、又社会主義の国ということでもかなりの違和感も感じましたが、中国人、人そのものに対して、その国土以上におおらかな温かさを肌で感じ、親近感と偉大さを同時に感じた事は、何より嬉しいことでした。一口に国民性と言ってしまえばそれだけのことですが、残留孤児の問題ひとつ取っても、とうてい我々日本人には出来ぬ事と、その広大な大地が育んだ彼等の心の豊かさ大きさに感服致しました。

相馬団長がどこへ行かれてもMRAをはっきり打出され、堂々と責任を果たされているお姿はご立派そのもの、そしてお元気に万里の長城に行かれたことも特筆に値することだったと思います。

MRA訪中の旅

伊藤 智子

MRA訪中グループの一員として北京を訪れましたが、感動を受け、又考えさせられる誠に意義深い日々となりました。

榊先生の70回を越える訪中で培われた濃密な人間関係が土台となって中国国際交流協会、中日友好協会、中華全国婦女联合会、北京育英学校、中日環境保護センター、北海幼稚園の20名を越える中国知識人との懇親、交流の時を得ましたことを誠に有難く思います。

中でも個人的体験として中華全国婦女联合会訪問時の2つの出来事は私の大事な心の記録となりました。この会は女性解放の為、農村婦人を底辺とするピラミッド型の全国組織で、リストラされた婦人80万人の再就職を成功させ、幹部だけで8万人の組織と知りました。この強大な組織のトップの在り方に思いを馳せておりました時、応対して下さっていた幹部の口から、指導者に最も必要な姿勢は「愛、愛情です」との言葉を聴きました。何故か思わず涙ぐみそうな感動を覚えました。かって文化大革命を敢行した人民民主主義独裁の社会主義国家との私の心の緊張感が雪どけた一瞬でした。

又、私は訪中に際し、亡父が中国で犯した戦争中の出来事について謝罪したいと考えておりました。戦いのさ中、中国の方と1対1で対峙、父は生き残ったのでした。ご遺族を思い、父の苦しみは一生続きました。私は懇談の中で思い切って心からお詫び致しました。通訳をして下さった幹部は別れ際、「あなたは、私のお母さんのように思います」と応えて下さいました。びっくり致しましたが、生涯私の心を暖める言葉をいただきました。

今回、4千年の歴史と広大な大地を持つ国の知識人の誇り、品格、そして行き届いた思いやりの心に接することが出来ました。来たる21世紀、MRAの一員として失われているアジアの方々の信頼を築く為、心を込めて努めたいと存じます。



● 全国各地からの観光客が万里の長城に（中央が伊藤さん）

経団連でコー円卓会議 (CRT)・シンガポール会議報告会 が開催される

須田 康司 企業行動部会 (CRT 部会) 事務局

(社)国際MRA日本協会・企業行動部会 (CRT 部会) は、去る11月8日に経団連にてコー円卓会議・シンガポール会議 (9月に開催) に関する報告・説明会を行いましたので、その様子についてお知らせ致します。

報告会は経団連の主催という形で午前10時から11時30分まで行われましたが、産業界から錚々たる企業トップを含む約90名の方々が参加されました。予想を上回る数の参加者となり、企業行動・企業倫理に対する産業界の関心の高さを実感しました。

報告会は経団連の和田専務理事の司会・進行の下に、次を示す2部構成で行いました。

1. コー円卓会議・シンガポール会議報告

- ・ CRT部会長の小笠原・ニフコ社長/ジャパントイムズ会長からの報告
- ・ CRT部会事務局の須田 (NEC) から会議詳細の説明
- ・ CRT副部会長の金子・NEC相談役からの報告
- ・ CRT部会幹事の金子・科学技術財団事務局長からの報告

2. 米国TSIファンド/ベンチマーキングについて

CRT 部会主幹事の稲岡・イトーヨーカ堂取締役からの説明

まず、小笠原部会長から、「CRTの歴史と活動」、「コー円卓会議・企業の行動指針」、「シンガポール会議の印象」、「企業行動の在り方」、等について話して頂きました。1986年の第1回コー円卓会議から参加されているご経験に裏打ちされた意義深い内容であり、また企業行動の在り方を考える上では「企業行動や企業倫理に関し、世界の流れを理解すること」、「社内の体制づくり」そして「経営トップの姿勢・役割」の3点が最も重要であるとの考えを示し、大変教訓に満ちた内容でした。

金子副部会長からは「何故企業倫理が必要か・企業倫理の重要性」、「企業行動指針の必要性」、「CRT精神の普及」、「シンガポール会議：特に、国別腐敗度評価での日本の評価の低さ」、「企業行動の体制事例 (NECの例)」等について話して頂きました。NECの社長時代のご経験を引用しながらの話で、非常に具体的かつ示唆に富む内容であり、中でも企業行動指針の実践体制に関する話は大変参考

になったものと思います。

金子部会幹事からは、過去のコー円卓会議では他の出席者から日本の不透明性について指摘を受けてきたこと、CRT・企業の行動指針の策定に直接携わった経験談 (同指針は「~すべきでない」という書き方ではなく「~すべきである」という優れて前向きの指針となっていること)、21世紀のキーワードは「倫理」であり社会活動のあらゆる分野で倫理がキーとなるとの考え、また日本はかつては経済数字で世界に於けるポジションを確保してきたが、今後はより深い日本の「民度」が決定要因となる、等の話をされ、大変に感銘を受けました。

更に、2番目のプログラムでは稲岡部会主幹事が米国のTSI (Total Social Impact) ファンド及び投資対象企業絞込みツールとしての、CRTプリンシプルに基づくベンチマーク評価によるTSI Ratingについて説明しました。要は、企業は節義ある企業行動の実践度合いによって評価される時代となりつつあり、日本でも投資会社から社会的責任投資ファンドがつい先ごろ発売され、企業としての社会的責任を果たしている企業が評価される時代がスタートした、との説明です。社会の公器としての企業の観点のみならず、企業価値の観点からも企業行動指針を実行する重要性が参加者に十分ご理解いただけたものと思います。

CRT部会は今後とも経団連・Global CRTとの連携の下で企業行動指針の普及に力を入れて行きますので、趣旨を理解頂き新たに会員加盟して頂ける企業が増えること、また、特に、既にMRA会員となっている企業がCRT部会に名前を連ねて頂けることを祈念しております。

(シンガポール会議で討議された内容についてはMRAニュースの前号-No.94をご参照下さい。)

現在、CRTシンガポール会議の報告を中心としたレポートを小冊子にまとめております。御関心のある方は、MRA事務局までご連絡下さい。

21世紀に向けて

一心によってつながるアジアと日本

日本経営者団体連盟 常務理事 矢野 弘典



昨年の12月に私は初めてカンボジアを尋ね、数日プノンペンに滞在しました。ILO（国際労働機構）のアジア地域会議に日本の使用者を代表して出席したのです。会議のテーマは、ILOが1998年に宣言した四つの中核的労働基準（結社の自由、児童労働・強制労働の廃止、差別の撤廃）を、いかにして実現するかでありました。

中核的労働基準の意義はどの国でも高く評価されていますが、その現実の方法となると、答えは決して一様ではありません。なぜなら、アジアほど経済発展のレベル、貧富の程度、文化、宗教など多様性に富んだ地域は他にないからです。とりわけ大変貧しい国や内乱で荒廃した国の状況に対し、先進国の尺度だけで良し悪しを判断することの愚を、対話を通じ改めて痛感しました。

もっと現場を知りたいという思いから、私はプノンペン滞在中に会議の合間を縫って多くの方々に会いました。国際MRA日本協会の藤田理事（前衆院議員）のご紹介でお会いした国家憲法評議会のソン・スーベル氏からは、内戦終結後の経済社会情勢と氏が経営する二つの孤児院のことを聞き、人々が背負っている傷と荷の重さを知るとともに、国家の指導的立場にある人物が、このような地の塩といえる活動を続

けていることに深い感銘を受けました。また、全東芝労働組合連合会の佐谷議長（当時）の紹介で朝早く訪問した小学校では、若い校長先生から、東芝労働組合の援助で校舎が完成し教育ができるようになった喜びの声を聞き、休み時間に私を取り囲んだ子供達からはキラキラ輝く目と笑顔のプレゼントを受けました。そしてまた、町外れの木工所では、20人ほどの日本のボランティア大学生に会い、生き生きとした働きぶりに圧倒されました。2週間から1月交代で次ぎから次ぎへと仕事は引き継がれていくそうですが、実に頼もしい青年達の姿でした。

日本はアジアの先進国として、役割を十分に果たしているのだろうか、というのが私の素朴な疑問でしたが、こうした事例の中からいくつかのヒントを得ることができたように思います。それは、何よりも「人」と「心」の役割の重要性です。何らかの援助をするにしても、遠くから物や金を送るだけではなく、直接現場に出かけて親身に手助けをすることが必要なのではないのでしょうか。草の根のボランティアとして働くのも、企業の駐在員としてももの作りの技術を伝えるのも、ともに素晴らしいことです。一緒に汗をかいてこそ「心」であると、私は思いました。

「自分が変わる、家庭が変わる」

母親心理学訓練講座講師 高柳 静江



出会いによって自分の人生が根底から変わりました。18年程前、私は子育て、夫、姑との不仲等、不安や悩みを誰にも相談できず孤独な日々を過ごしていました。そんな時にたまたま見付けた新聞記事に「母親心理学訓練講座」があり、早速受講しました。そこで故山崎房一先生が温かく私を迎えてくれました。

先生に、私は自分が嫌いです、子供や夫に優しくできる自分になりたいと、話したところ「欲が深いね、そのままのあなたでいい」と言われ驚きました。初めて他の人に認められたのです。そうか、私は欲が深かったのだと心底気付きました。そして私は自分を肯定し自分を受け入れることができました。すると内なる声が聞こえてきました。「自分の素晴らしさがわかるまで、お前を苦しめたのだ」と、そして、子供や夫のありのままの姿を受け入れ、子供の心をキズつけ淋しい思いをさせたことを謝りました。子供は「もう過ぎたことだよ」と許してくれ、許し、許されることの大切さを教えられました。子供の育て直しに取り組みました。1年程たったある日の子供の「お母さん優しくなってくれてよかったよ」の一言で信頼関係が確立され、今後何事が起きようと乗り越えていける力を身につけたと確信しました。夫との仲も子育て同様、認める、許す、謝まることを忍耐強く続けていきました。夫が「苦勞をかけて悪かった」と謝ってくれ、それ以来仲の良い夫婦となりました。私が家族を植民地的に支配していた家庭から、私の考え方を変えただけで、安らぎのある平和な家庭に変わりました。

家庭を通して学んだことは、毎日の生活の中から少しの勇気をもって行動することで良い方へと変わるということと、子を持って知る子の恩です。皆様から褒めていただける子供に成長してくれた幸せを感じています。

◆◆◆ コラム『甘口・辛口』 ◆◆◆

社団法人 国際 MRA 日本協会会長 相馬雪香

— 道徳、倫理をキーワードに —

この世紀ともいよいよお別れです。一夜あければ21世紀という歴史的な瞬間が刻々と迫っています。これを書いているのは12月8日、太平洋戦争の幕明けとなった日です。その日、私は英国大使館の友人と帝国ホテルで会うことになっていたのですが、一向に現れないので、どうしたのかと訝っていた時、ラジオの放送で真珠湾攻撃のことを知り、啞然としたことを思い出します。

省みると20世紀は二つの世界戦争を経験したおぞましい世紀でした。昔風の言葉で言えば、霸道、力を誇示した世紀でした。どちらかというとな獣力です。人間と獣との違いは理性だと言いますが、加えるに道徳、倫理があるということではないでしょうか。

省みると戦争に続く敗戦で極端に物資が不足し、何はともあれ、経済力をと必死になったように思います。そして昨今の凡ゆる面での閉塞状態の到来です。次の世紀にはどうしても人間の根本である道徳、倫理を具体的に、それぞれの立場で見直し、実行することから始めなくてはならないと痛切に感じている人々の様々な動きが、世界各地で始まっている様です。この機を逃さず一歩ふみ出そうではございませんか。

▼▼▼▼▼ 第23回関西 MRA 秋季大会報告 ▼▼▼▼▼

去る10月7日から8日にかけて『21世紀への種をまくために』のテーマの下、第23回関西MRA秋季大会が、大阪市のロッジ舞洲で開かれました。今夏のMRAコー世界大会参加者からの報告や、それから発展して差別意識の問題や謝罪の在り方等についての率直な話し合いがなされるなど、人数は少ないながら(14人)充実したものとなりました。MRAとの出会いをきっかけとして、現在多くの発展途上国で様々な援助活動を行っている韓国の尼僧である朴清秀さんのカンボジアでの地雷撤去、井戸掘り、そして孤児院への支援等の様子を納めたビデオを見、改めて考えさせられることも多くありました。参加された二人の若い方々の感想を御紹介いたします。

◆◆関西秋季大会に参加して◆◆

塚本 真由子 (会社員)

「4月から社会人になり、想像していた生活とは全く異なり、毎日遅くまでの仕事で、周りを見る余裕のない日々を送っていましたが、久しぶりにMRAの大会に参加し、静かな時間を持ち、参加者の方々の体験談やお話しをシェアする機会を得て、今の生活について省みることができました。私は今、特許関係の仕事をしていますが、この仕事を通じて、その忙しさから、今日世界でITやバイオテクノロジーなどの科学技術の進歩とともに激しい開発競争がなされていることを感じます。しかし、その一方、依然として食糧や水といった、生きていくのに最低限必要なモノさえ入手困難な人たちがいるのも事実です。今回の会議を通じて、この多様な

広い世界で、自分はこれからどこで、何をするのかと、改めて考え直すきっかけとなりました。これからも、このようなMRAの活動への参加を通じて、今の社会において、自分が何をすべきか学んでいきたいと思えます。」

大岸 史佳 (会社員)

「実は私は関西秋季大会に参加する直前、気持ちが重くなる体験をしていました。関西の広告会社で契約社員として営業に携わっておりますが、何故かトラブルが絶えませんでした。初対面で罵倒される事が多く、自分自身に自信を失いかけていました。いつのまにかお客様に偏見を感じている自分がありました。私が参加した時、ちょうど、日本はもとより世界にある差別や偏見といった問題についての議論がなされておりました。私自身、暗い気分の中で、この重いテーマに最初はとまどいを隠せませんでした。しかし参加者の方々のご意見を伺ううちに、自分の重い気持ちが晴れてきました。この会議では、差別は固定観念から生まれ、時間が経てば経つほど、差別する側される側双方の悪感情が蓄積する事を学びました。

『静かな時間』を持つ中で、自分の中で偏見が生まれ、私とお客様の間で悪感情が蓄積される危険を知り、自分が動揺しない事で、この悪感情のサイクルを止めなければと感じておりました。現存している差別問題から、自分個人の日常生活の体験の話になってしまいましたが、気づきの機会を頂いたMRAに感謝したいと思います。」



MRA ワールドニュース

世界のMRA—最近の動き

■アメリカ

アメリカの傷を癒す責任は全国民のもの

— 2001年6月「和解と正義」のための

米国民フォーラム開催 —

2001年6月20日から24日にかけて「和解と正義のために地域を結ぶ」と題した国民フォーラムがアメリカMRAの呼びかけにより、首都ワシントンのハーワード大学のキャンパスで開催される予定です。フォーラムの内容は、「人種間相互の憎悪と非難の悪循環を断ち切り、将来の暴力行為を防ぐことは可能だろうか?」「歴史をありのままに認識することが、そのエネルギーを解放し、正義への意志を育むとを可能にするだろうか?」「どのようにすれば、一人ひとりが建設的な社会変革の役割を担えるようになるだろうか?」といったアメリカの何れの地域にとっても重要な問題です。

このフォーラムは、MRAの「都市の希望 (Hope in the Cities)」プログラムと信仰・政治研究所、及び、和解と正義のために活動する他のアメリカの諸団体とのパートナーシップの下に行われることを大きな特徴とします。ここで行われている『和解への課題』のセッションからも幾つかのケース・スタディが紹介される予定です。

趣意書には次のように書かれています。

『私達は国民として、アメリカ人を二分しようとしている社会経済ギャップを狭めることに全精力を傾けなければなりません。たとえ私達に過去に生じた傷に対する責任は無くとも、傷を癒す責任は私達全員にあります。この傷を癒すという仕事は1つのグループの専売特許ではありません。この仕事を成し遂げるためには、自由主義者であれ、保守主義者であれ、又、老若等の如何を問わず、私達一人ひとりが最善を尽くすことこそが必要です。アメリカが全ての人に希望と機会を与える場所となるように、私達は、アメリカに存する多様な文化と才能、そして創造性という豊かな資源を、相互に結び付け活かさなければなりません。そうすることにより、人種、宗教、民族間の対立によって引き裂かれている世界に対し、一つの良いモデルを示すことができるのです。』

アメリカ運営委員会メンバー：キャシー・ビーネン、ロブ & スーザン・コーコラン、スティーブン・グレスドルフ、ブライアン・ハムリン、キャサリン・リントン、ディック・ラフィン

■ロシア

「自由への基盤 (Foundations For Freedom Course)」

— 先生を対象にセミナーを開催 —

10月にシベリア州立交通大学の24名の先生達が州都ノボスビエスク近郊で行われた、MRAの主宰する「自由への基盤」セミナーに参加しました。同大学のコンスタンチン・コマロフ学長は過去数年にわたり、この「自由への基盤」コースに参加した多くの学生達が良い影響を受けているのを見て、自ら教員向けのセミナーの開催を提案しました。

先生達の年齢は24歳から60歳に亘りました。参加者の意識は今までの「自由への基盤」に参加した学生達と同様、非常に高く、深い議論、驚くような発見と共に、笑い声に溢れ、夜遅くまで話込む姿も見られました。ある参加者は、「普段はこのセミナーで取り上げるような問題について深く考える時間がなかなか持てません。しかし、こうした『内省と決心』、『チームワーク』といったテーマについて考えることは重要です。ここで持てた雰囲気は是非維持しなくてはと思います。」と述べました。

数日後、セミナーの運営に当たった私達は、このセミナーに参加したほとんどの先生達、そして、以前にこのコースに参加した学生達とも再会しました。ある先生が、MRAの世界会議場であるコー (Caux) のビデオを学生達に見せたところ、大変な興味を示したとのことでした。ノボスビエスクで会った多くの人たちが、将来、この「自由への基盤」のコースに是非参加したいと望んでいます。

ナタリア・エミリアノバ (ロシア、シベリア交通大学英語教師)、ハーワード・グレース (イギリス、元数学教師)、キース&マリナ・シャイグロンド (オランダ)、ジョイ・ウィークス (イギリス、元教師)

◆◆◆ 読者からのお便り ◆◆◆

「先日、IMAJニュースを見ました。・・・他にもたくさんの人から『見たよー』と言われてとても嬉しかったです。・・・又、初心に戻ってがんばります。私のスピーチをニュースにのせていただくとは思ってもみませんでした。が、とてもいい経験になりました。口で言うだけでなく、平和な国が他の国を平和にするということを忘れず、実行していきたいと思います。その為にはマズ、もっと勉強します。本当にありがとうございます。16年目にして、やっとMRA精神が少し理解できた気がします。」(藤田愛)



MRA ワールドニュース

世界のMRA—最近の動き

■ オーストラリア

「ビジネスと産業」ワークショップを開催

昨年の12月にオーストラリアのシドニーでMRA国際会議が開催されましたが、この会議に参加したパプアニューギニアで木材ビジネスを営むジョセフ・ウォン氏は、今までとは全く違うやり方でビジネスを行おうと決心し、未払いだった所得税26万米ドル(約280万円)を政府に支払おうとしています。11月初旬にメルボルンのMRAアジア太平洋センター、アーマーで行われた「ビジネスと産業」の週末ワークショップにおいて、彼は、「自分のとったこの行動がきっかけとなって、パプアニューギニアの木材産業に国家査察のメスが入ることになりました。」と、報告しました。

このミーティングには、会社の管理職や経営者、労働組合活動家や学生など70名が参加しました。「人間関係」というセッションでは、多国籍の出身者から成るメルボルン地域でもっとも国際的な一つの市で、99年に市長を務めたナウム・メルヘム現市議員(氏自身もレバノンからの移民)が、様々な人種的・文化的背景を異にする人々の協力により、鉄道と市電の車両製造に従事する何千人という地元の人々の仕事が確保されたという経験について語ってくれました。

グループ討論の一つでは、若いインド人の司会者が、静かに自己を省みることの大切さについてそれぞれの体験を分かち合おうと提案しました。ある弁護士は、煩雑な事例に取り組む場合、法廷に入る前に「静かな時間」を持つと、どのように対処していけばよいかを示す「ひらめき」のようなもの

が得られることが多いと述べました。

こうした集まりの要請が多く、シドニーでも同様のワークショップを開催しようと計画しています。

ロブ・ウッド、ジム・ベッグス記

(前記の三つの記事はMRA World Bulletin 11月号の記事を翻訳したものです。)

■ インド

「平和の創造者 (Creators of Peace)」会議を開催

私たち一人一人が平和造りに関わることができ、その中でも女性の役割は特に大きい」ということから、女性たちのイニシャティブにより、1991年に始まったこの「平和の創造者」会議が、インドのパンチガーニMRAアジア・プラトー・センターに於いて来年の1月12日より20日まで開催されます。1991年の第1回、そして94年の第2回の会議は共にスイスのコーMRAセンターで開催され、70カ国より数百名が集まりました。過去の会議には、相馬雪香会長や「東京フォーラム」代表の荒井さよ子さんが日本から参加されました。会議案内状に引用された相馬会長の言葉に次のようなものがあります。「我々だれひとり平和へのビジョンを持っていない人はいません。我々に欠けていることは行動に移すことへの第一歩で、それは今の自分から始めることです。自分のどこが間違っているかをはっきりと理解をし、それを謙虚な気持ちで認めるところから始めることです。」

事務局便り

- ◇第24回MRA小田原国際会議は来年度の6月8日(金)より10日(日)まで例年どおり、アジアセンターODAWARAにおいて2泊3日の日程で開催予定です。同センターの中山所長が、「『日本がアジアの灯台になる為に』というアジアセンターが本来建てられた理由を肌で感じられるような会議にしたい」と言われたことを念頭に企画しております。来年度の協会の年間テーマ(コー世界大会と同じテーマ)である、『グローバル化する世界と私たちの責任～21世紀のための目的と価値観を探る～』を、同国際会議のテーマとすることとしました。又、企業にはなんらかの形で誰でもが関わりをもっており、企業倫理が一般の人たちの生活にも大きく影響するということを踏まえ、コー(経済人)円卓会議(CRT部会—企業行動部会)のメンバーの方々との連携の下に来年の会議の中でも再びセミナーを開催する予定です。是非、皆様のご予定にお加え下さい。
- ◇MRAの例会(関東地区)にご参加頂けない方々のために、テープ起こしをして、テキストを実費でお分けできるようにしたいと考えております。準備ができ次第、又、ご案内致します。尚、テープ起こしをして下さるボランティアも募集しておりますので、ご協力頂ける方がございましたら、是非、事務局までご連絡下さい。
- ◇本年も会員の皆様の温かい御支援を賜りましたことを心より感謝申し上げます。いよいよ21世紀も間近かとなりました。2001年が皆様にとりまして素晴らしいお年となりますようお祈りしております。